

# 消費生活

Consumer Magazine

2015 11・12

平成27年11月1日発行(奇数月1日発行)通巻326号 創刊昭和41年10月1日

No.326

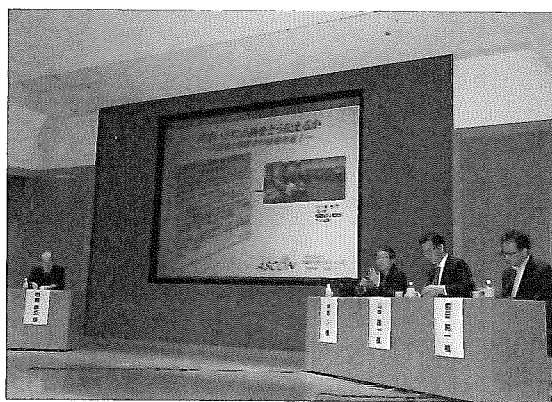
## 10月10日住宅部品点検の日シンポジウム

一般社団法人リビングアメニティ協会は、二〇二二年に十月十日を「住宅部品点検の日」と定め、それに因んで今年で四回目になる「住宅部品点検の日」シンポジウムを十月一日に、文京区のすまい・るホールにて開催した。

まず、同協会住宅部品点検推進部会前田純一氏はこれまでのハンドブックの作成や広報・イベントなど、住宅部品点検推進活動について報告。「諸外国では自分で家のメンテナンスをする文化が根付いている

が、日本にも点検文化が定着することを目指したい」と話した。

「住宅の長寿化から居住力を考察する」をテーマに基調講演を行った滋賀大学名誉教授山崎古都子氏は、「昔は大掃除の日が法律で定められていて、地域ごとに一齐に行っていた。その時は家族総出で、いつもは行わない畳あげや屋根、雨どいなどの掃除もし、特に外回りの掃除は男性の担当だった。今は大掃除の習慣もなくなって、住宅全体の状態を知ることができなくなる大掃除や点検がされなくなっている。家を長持ちさせるためにも男性も参加した住宅の大掃除と総合点検は必要なのではないだろうか」と訴えた。



いかに消費者に点検をしてもらうかが議論された

「住まい手に点検をどう伝えるか」をテーマに行われたパネルディスカッションでは、住宅部品点検研究委員長明治大学名誉教授向殿政男氏をコーディネーターに、パネリストとして一般社団法人消費者市民社会をつくる会理事長阿南久氏、(株)LIXIL 上席執行役員品質本部本部長山中潤一氏、一般社団法人リビングアメニティ協会前田純一氏が意見を交換した。

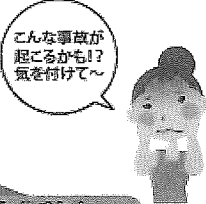
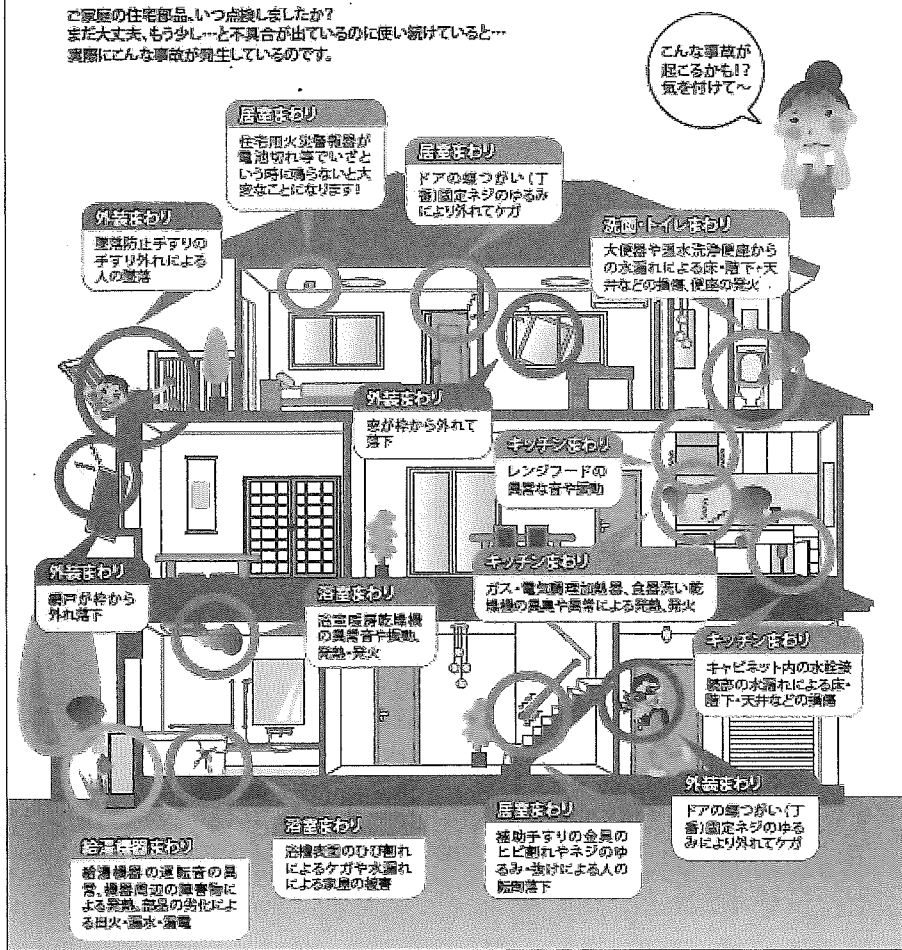
経年劣化によって住宅は様々な支障が出てくるが、点検によって修復していくことで確実に住宅寿命は伸びること、住宅の部品はすべて永久的に使えるものではなく、経年劣化はすべてにあることが報告された。

阿南氏は、「消費者は、点検の必要性、点検をすれば長く持つことは知ってはいるのだと思う。ただ、住宅部品をどれくらいで点検したらいいのか、その住宅部品の耐用年数やどのように修理や交換をしたらいいのかなどの情報をあまり提供されていないのではないだろうか。取扱説明書に書かれていてもわかりにくいケースがあり、住宅メーカーなどに点検が必要になった時期に訪問してもらうというようなことも必要ではないだろうか」と語った。

その部品、いつから使っていますか？

# 故障したまま使い続けると 大変なことになるかも!!

ご家庭の住宅部品、いつ故障しましたか？  
まだ大丈夫、もう少し…と不具合が出ているのに使い続けると…  
実際にこんな事故が発生しているのです。



課題として挙げたのは、消費者が無料修理の保証期間と混同してしまふことやその期間中に壊れた時にクレームが来るかもしれない理由で耐用年数を表示したくないメーカーもまだまだ多いことだ。

また、一定使用期間になったら機器のランプを点滅させる「タイムスタンプ」を導入した際に、ほとんどの

使用者が有料の点検を受けたのだが、反発した利用者が〇・一四%おり、その対応をどうするのかという意見もあった。

経年劣化による事故を防ぐために「点検文化」を根付かせるには、メーカーの適切な情報提供と、消費者教育や地域コミュニケーションによる啓発が必要だという意見も出た。

## 身の回りの住宅部品を 点検してみよう

私たちの身の回りでどんな住宅部品を点検したらいいのか、意外に知らないものも多い。一般社団法人リビングアメニティ協会が作成した「自分で点検！ハンドブック」に沿ってチェックしてみたい。

### ☆キッチンまわり

システムキッチン・流し台本体、レンジフード、食器洗い乾燥機、ガス調理加熱器、電気加熱調理器

### ☆浴室まわり

ドア、床・壁・窓、浴槽、水栓金具、暖房乾燥機、鏡や手すりなど

### ☆洗面・トイレまわり

洗面化粧ユニット、大便器、温水洗浄便座、換気扇

### ☆給湯器まわり

ガス・石油給湯器、電気給湯器

### ☆居室まわり

内装ドア、補助手すり  
玄関ドア、サッシ、墜落防止手すり  
どのように点検するかは、「自分で点検！ハンドブック」に詳しい(同協会のホームページからダウンロード可能 <http://www.allanet.org/>)。不具合や異常を発見した際には、

使用を直ちに中止し、施工店、販売店、メーカーのいずれかに連絡してほしい。

この点検のリストの住宅用品は、すべて寿命があり、経年劣化を免れないので、それぞれの部品ごとに、点検の時期や買い替える時期が違ってくる。消費者の中には、トイレの陶器の便器やサッシ等は、いつまでも交換しなくてもいいと思っている人がいるだろうが、陶器の便器は十五年、サッシ等は二十年ぐらいで交換するのが適正なのだという。

長く使うことが美德というイメージを持つ人は多いだろうが、これも適正な使い方、定期的な点検、適正な修理・交換が伴ってはじめて安全に使うことができる。自分で点検できない高齢者などへも「見守り」という形で、製品の安全確保のために協力していきたいものだ。